菊池 浩士　議員

一括質問方式

人口減少社会、市の課題は
市長…移住・定住を推進していく

問………
「で・くらす遠野」と空き家バンク連携について現状と課題は。

答（市長）………
インターネットなど可能な情報発信を活用し、「で・くらす遠野」の存在を市内外に発信するとともに、関係する機関・団体との連携を今以上に密にし、移住・定住を推進し会員増に努めていく。

問………
I・Uターン者への空き家リフォームへの補助制度は。

答（市長）………
一戸建て住宅で現に居住していないもの、または移住者が居住後3か月以内のものが対象となる。
リフォーム工事に要した経費の2分の1に相当する額以内の額とし、25万円を上限としている。
平成22年から現在まで18軒に助成している。

地域コミュニティの再生について
市長…段階的に指定管理制度を導入

問………
地区まちづくり計画の現状と今後の推移は。

答（市長）………
これまでの地区の取り組みは、行政に頼らず地域自らの力で、平成29年度から今年度までの3か年で全地域が地区まちづくり計画を策定している。
また、それに基づき地域一括交付型補助金を活用し、様々な事業が各地域で展開され、地域自ら考える動きができている。

問………
地区センターの指定管理者制度導入の考えは。

答（市長）………
地区センターを地域運営組織等に指定管理することで、活動拠点施設である地区センターの管理運営が効率的にでき、地域づくり事業に専任できる環境が充実されることが期待できる。導入の際には地域と十分な協議を行ったうえで、熟度に応じて段階的に移行していきたい。

遠野町11区の自治会まつり

佐々木 大三郎　議員

一問一答方式

地域づくりの進め方は
市長…持続可能なまちづくり

問………
「小さな拠点による地域づくり」を策定した背景と、今後の進め方は。

答（市長）………
少子高齢化と人口減少が進む中、社会の変化に遅れをとらないようにするため、各地区センターに求心力を持たせるようにする。また、各地区の文化・歴史・人材の有無など、地域特性を考慮しながら持続可能なまちづくりを進める。

問………
新しい地域づくりへの移行に伴う地区センター職員の体制に変更はあるか。

答（市長）………
現3人体制を基本としながら、多様なニーズに合わせて柔軟に対応したい。

問………
地区センター職員の短期間雇用による弊害を解消するために、雇用権限を各地区に移譲し長期間雇用にすべきでないか。

答（市長）………
雇用のあり方、住民自治のあり方を踏まえ、安心して仕事に取り組める環境づくりが課題と捉える。

問………
地区センターへの委託業務の拡大と、地域で自由に使える一括交付金の増額を検討してはどうか。

答（市長）………
業務内容等について住民ニーズ等を勘案しながら検討したい。

地域活動の核拠点になる上郷地区センター

中学校再編後の施設活用策は
市長…現状と地域要望を考慮する

問………
中学校再編時に示された「中学校再編後における学校施設等の活用計画」について、その後の取り組み状況は。

答（市長）………
当初示した活用計画をコンセプトに地域要望を取り入れながら進めている。現状は、小友中学校は地域活動拠点や町民図書館、綾織中学校は地域団体活動スペース、上郷中学校は各団体等にテナントとして貸出し、地域の賑わいを創出している。

問………
中学校再編から6年が経過していることから、地域の新たな現状を再確認し、将来ビジョンや財政状況を勘案しながら再検討する必要があるのでは。

答（市長）………
施設の維持管理や環境整備を図りながら「地域まちづくり計画」に基づいた活用計画を支援していきたい。